２月の園だより

学校法人志賀学園
認定こども園
平第一幼稚園
令和８年１月３０日

今年度も残すところ残り２か月となりました。先日、カレンダーを数えてみると土日祝日を除くとさくら組さんは卒園式まで残り３０日しかないことに、寂しさを覚えながら園だよりの内容を考えていました。

今のさくら組さんは長い子で４年間、平第一幼稚園でたくさんの経験を通していろいろなことを遊びの中で学び成長してきました。

令和５年度（３年前）にこども家庭庁から「はじめの１００か月ビジョン」の中で、幼児期までのこどもの育ちに必要なのは「遊びと体験」であると示されました。

これを受けこども園ではこれまでこどもの「楽しい」「やりたい」「やってみたい」という思いや願いを尊重し取り組んで参りました。幼児期は、大人の考えを決めつけて教え込むのではなく、こどもが自ら感じ取り学べるように、こども１人ひとりの気持ちに寄り添いこどもが主体的に遊べる環境作りをしています。更には、このような環境を通して、これからの社会で必要とされる非認知能力（意欲・発想・コミュニケーション等々）が育んでいけることを目指していきます。

これから先も、ご家庭とこども園と社会が連携して、主体的に選び、選択でき、「やってみたい」が広がるあそびの環境を大切にしていきましょう。

「節分って何？」

節分は雑節の一つで、各季節の始まりの日（立春・立夏・立秋・立冬）の前日のことを指します。節分とは「季節を分ける」ことも意味しています。江戸時代以降は特に立春（暦においては変動しますが、毎年２月４日ごろ）の前日を指す場合が多いです。

一般的には「鬼は外、福は内」と声を出しながら福豆（煎り大豆）を撒いて、年齢の数だけ（もしくは１つ多く）豆を食べる厄除けを行う。また、玄関などに邪気除けのやいかがし（柊の葉っぱの付いた枝に焼いた鰯（いわし）の頭を付けたもの）などを飾り邪気が入り込まないよう飾りつけをする家庭もあることと思います。これらは、地方や神社などによってもやり方などが異なってきます。

節分は宮中行事として、季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると信じられていたため、それを追い払うための悪霊ばらい行事が執り行われていたことが始まりとされています。

「なぜ豆をまくの？」

節分でなぜ豆を用いて豆まきをするかというと「穀物は生命力と魔除けの呪力が備わっている」という信仰、または語呂合わせで「魔目（豆・まめ）」を鬼の目に投げつけて鬼を滅する「魔滅」に通じ、鬼に豆をぶつけることにより、邪気を追い払い、一年の無病息災を願うという意味合いがあることから昔から神力が宿る神聖なものとして扱われてきました。

生の豆ではなく、煎り大豆をまく理由は、“まいた豆から芽が出る”すなわち邪気が芽吹くことを防ぐためと考えられています。そのほか、煎り大豆には鬼を「射る」効果があるから、という説もあります。

平第一幼稚園　主幹保育教諭坂本卓哉